



城東伝統的建造物群保存地区 (平成25年8月重伝建選定)

城東伝統的建造物群保存地区は、城下町の東部に位置し、橋本町、林田町、勝間田町、中之町、西新町、東新町の出雲往来沿いを範囲としています。

商家町として発展した町並みで、江戸時代に形成された町割を良く残しています。江戸時代の町家を主体とし、切妻造平入りを基本として、出格子窓、虫籠窓、なまこ壁、袖壁など、意匠的に優れた伝統的建造物が建ち並んでおり、城下町に形成された歴史的な風情を良く伝えています。

出雲往来に沿って町家が建ち並び、往来は東端・中程・西端の三カ所に鍵折れを設けています。町家の敷地は往来に面しており、間口は一定しませんが、奥行は十七間が原則であったと考えられています。

敷地の分割や統合が頻繁に行われていた様子が江戸時代の資料からうかがうことができ、城東地区は江戸時代において経済活動が盛んであったといえます。

東新町にある城東むかし町家は江戸時代の豪商の屋敷で、江戸末期の主屋や明治時代の離れ等、往時をしのばせる建築物が残されています。

近世の江戸情緒漂う町並み



津山城下町絵図(享保8年頃)より作成



自動車でのアクセス

中国自動車道 (津山IC/院庄IC)
大阪から約2時間
主要国道 R53 (岡山から約1時間30分)
R53 (鳥取から約1時間40分)
R179, R181, R429 他

列車でのアクセス

津山線 (岡山-津山)
岡山から快速約1時間 普通約1時間30分
因美線 (鳥取-津山)
鳥取から約2時間30分

高速バスでのアクセス

大阪-津山 大阪から約3時間



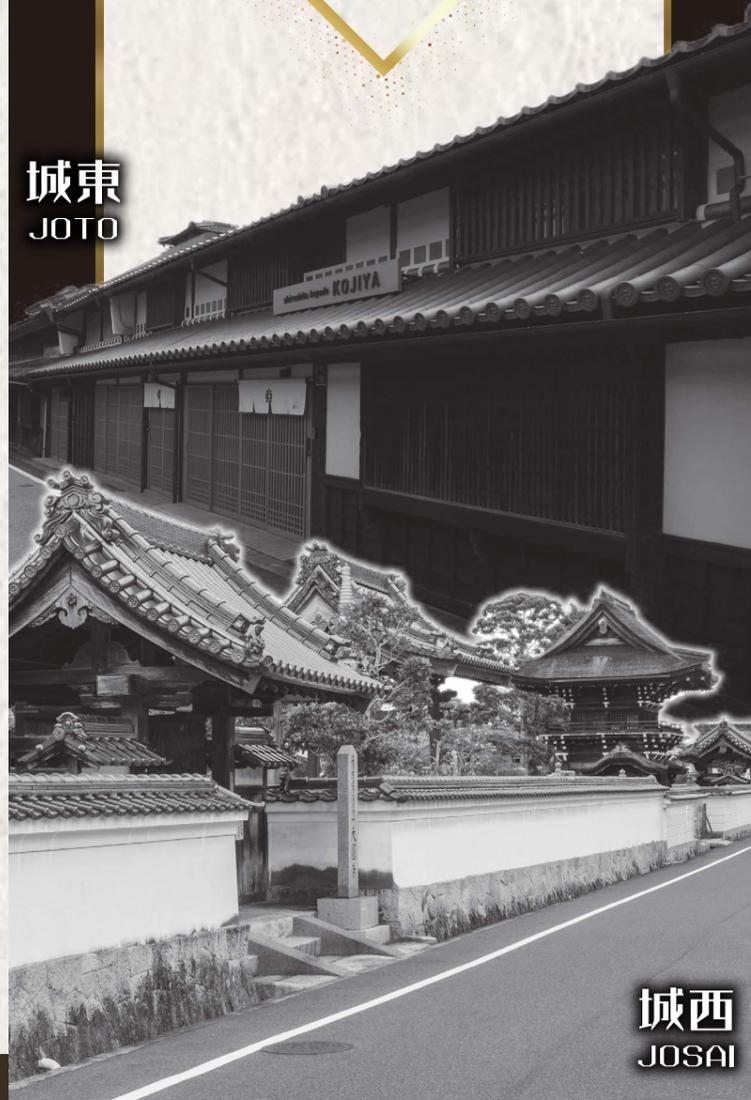
津山市産業文化部
歴史まちづくり推進室
〒708-8501 岡山県津山市市北520
TEL 0868-32-7000 FAX 0868-32-2154
E-mail machizukuri@city.tsuyama.lg.jp



津山市 重伝建

重要伝統的建造物群保存地区
Important Preservation District
for Traditional Buildings

城東 JOTO



城西 JOSAI

津山の地に城下町を建設したのは、美作一国支配を実現した森忠政です。忠政は慶長8年(1603)に美作国18万6500石を領有し、翌9年に城地を鶴山(現津山城跡)に決めました。

城下町の構成は、城の周辺に武家地を配し、城の南側に東西に貫通するように出雲往来を配し、往来沿いには町人地を、そして城下町の外縁部(東・西・北)に社寺を配置しました。



城西伝統的建造物群保存地区 (令和2年12月重伝建選定)

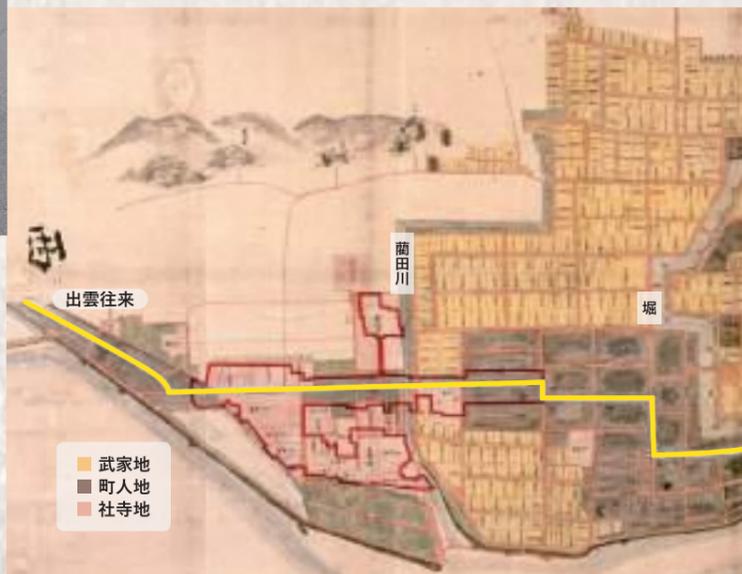
城西伝統的建造物群保存地区は、城下町の西部に位置し、坪井町、宮脇町、西今町、茅町の出雲往来沿い及び西寺町と小田中の一部を範囲としています。

西寺町は津山城下最大の寺院集積地で、江戸時代には22もの寺院が並んでいました(現在は12ヶ寺)。現在でも、17世紀初頭~20世紀後半の各宗派各時代の建築様式がみられます。

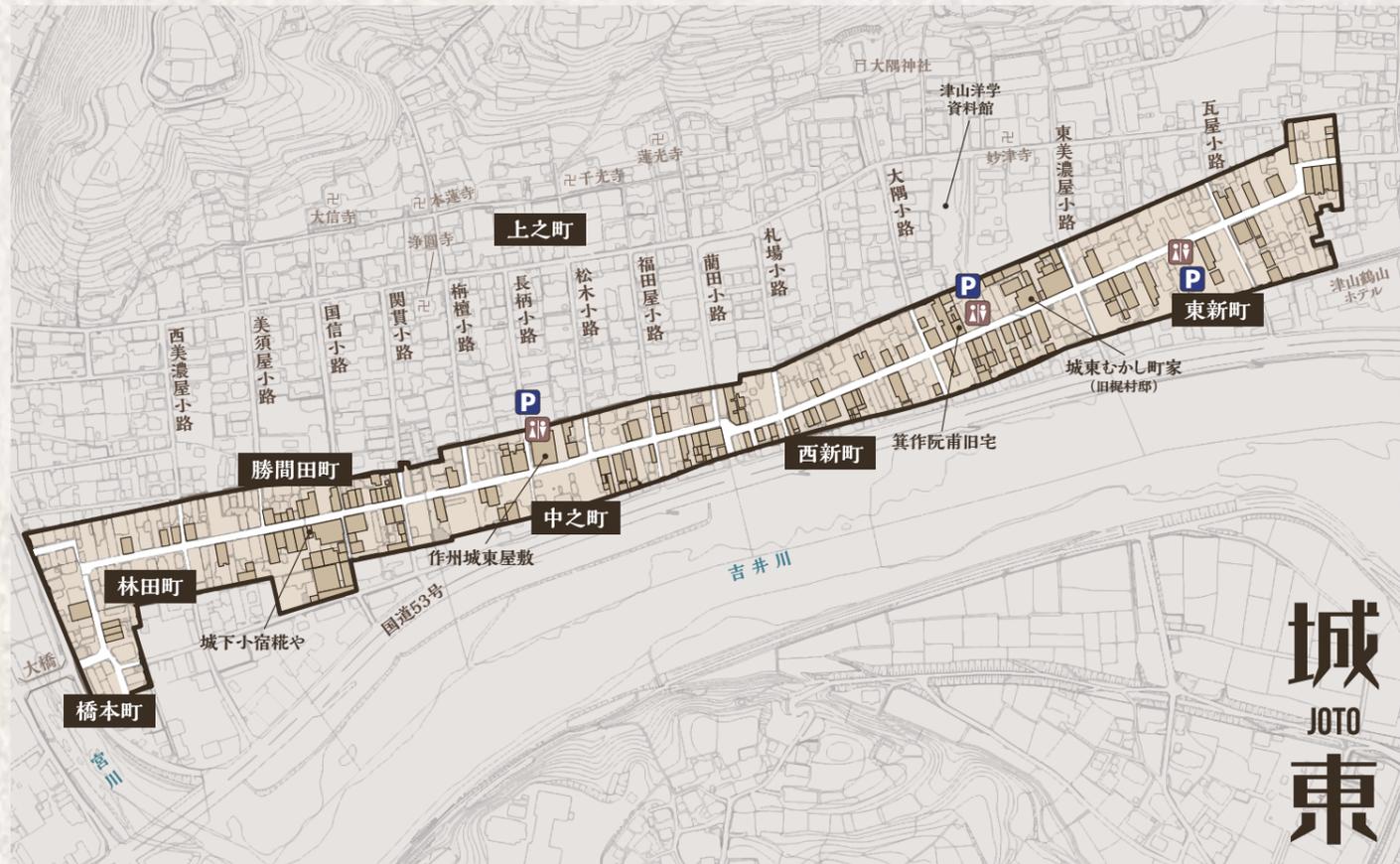
出雲往来沿いの町々は商家町として、江戸時代の地割を残しつつ、明治時代以降大いに発展しました。特に、明治31年(1898)の中国鉄道(津山~岡山駅間)の開通により劇的な変化が現れ、津山駅(現津山口駅)で汽車から降りたモノやヒトは、城西の町々を通って城下町中心部へ移動したため、城西が津山の玄関となり、繁栄しました。この地区の繁栄を象徴するかのよう西今町に津山市田邑の資産家である土居家の個人銀行「土居銀行津山支店」が明治42年(1909)に置かれました。

現在、この土居銀行津山支店は、作州民芸館として生まれ変わり、城西地区の象徴として親しまれています。

社寺建築と町家、 近代建築が織りなす町並み



津山城下町絵図(享保8年頃)より作成



城
JOTO
東

● 西今町の町並み



■ 作州民芸館
(旧土居銀行津山支店)
国登録有形文化財
明治42年(1909)に建築された。擬洋風の建物で城西伝建地区の中核施設のひとつ。



■ 翁橋
国登録有形文化財
大正15年(1926)に土橋から鉄筋コンクリート製に架け替えられた。アールデコ調の大きな親柱が特徴的。



■ 本源寺
国重要文化財
森家の菩提寺で、本堂は慶長12年(1607)建立。同じ城西地区の妙法寺、泰安寺とともに津山3カ寺のひとつに数えられる。



城
JOSAI
西



● 勝間田町の町並み



■ 旧菊田家住宅
国重要文化財
勝間田町にある大規模な町家で、酒造業を営んでいた。現存する建物のうち、主屋の建築年代は寛政2年(1790)頃と考えられている。



● 西新町の町並み



■ 箕作阮甫旧宅
国史跡
この町家は、箕作阮甫(みつくりげんぽ)が少年期を過ごした生家を復原修理したもので、小規模町家の典型例として貴重である。

■ 出雲往来
津山城下町を建設した森忠政は、吉井川の南岸の山沿いを通っていた出雲(現島根県)と播磨(現兵庫県)を結ぶ道を城下町に引き込み、往来の両側に町人地を配置した。これが現在の出雲往来である。津山城下の流通を支える大動脈として機能した。



■ 津山洋学資料館
江戸後期から明治初期にかけて津山藩は優れた蘭学者を輩出した。宇田川榕菴(うだがわようあん)や箕作阮甫など津山ゆかりの蘭学者たちの資料を展示している。



■ 城東むかし町家
(旧梶村邸)
国登録有形文化財
広大な敷地を持つ、近世から近代における城東地区に有数の豪商の屋敷であり、時代とともに増改築された町家として貴重なもの。

● 城西の町並

■ 西今町の軒切り
昭和12年頃、西今町では自動車社会の発展に対応するため、道路に出た軒を切り、利用可能な空間を広げる「軒切り」を、町内一斉に実施したとされる。

■ 社寺建築
西寺町は津山最大の寺院集積地。江戸時代に創建された22ヶ寺のうち、12ヶ寺が残っている。近世・近代における各宗派の建築様式がみられる。



● 町並の特徴



● 城東の町並

■ 連続する軒・庇
城東地区の町家は、一階庇の位置が隣同士でよく揃っており、他の地域には見られない景観的特徴と言える。

